

「学問への扉」リーディングリストについての説明

このリーディングリストは、全学共通科目の「学問への扉」を受講する学生のために、香川大学の教員が「大学生としての学びをスタートするにあたって手に取ってほしい本」をリストにしたものです。紹介してくれた先生に面白さのポイントなどを説明する紹介コメントもつけてもらいました。ここで紹介されている中央図書館のブックウォール（入口ゲートを直進、突き当りを左に曲がったところにある本棚）に配架されていますので、気になったものがあったら手に取ってみてください。以下、リーディングリストの見方等について、説明をします。

1. 紹介書籍のグループ分け

香川大学では、全学共通教育の運営のために26の領域が設定されています。リーディングリストを作成するにあたり、学問分野及び教員を以下のように大きく5つのグループに分けています。

グループA：哲学・倫理学、芸術、文学、言語学、英語、初修外国語、日本語、歴史学、地理学

グループB：心理学、社会学、教育学

グループC：法学、政治学、経済学、経営学

グループD：数学、地球科学、物理学、化学、生物学、統計学、情報科学

グループE：医学、看護学、健康・スポーツ

このリーディングリストでは、上記のグループごとに紹介書籍をまとめています。同じ書籍が二つ以上のグループで推薦された場合は、それぞれのグループで情報を掲載し、別グループでも推薦されていることを明記しています。

2. リーディングリストの見方

以下は、リストの見本です。掲載されているそれぞれの情報について解説します。

(1) 書籍のタイプ：a. 大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）、b. 特定の学問分野に関わるもの（たとえば「歴史学」の学びを深めるための本）、c. 「学問への扉」に属する特定の科目の参考文献、という3つのタイプに分けられます。bの場合は、(3)をみると、該当する学問分野がわかります。なお、タイプcについては、現在開講されていない科目の参考文献も含まれています。

(2) 書誌情報：著者、書名、出版社、出版年が表示されています。

(3) 関連する学問分野：関連する学問分野が優先度の高いものから書かれています。


(4) キーワード：関連するテーマなどが挙げられています。

(1) 書籍のタイプ：a. 大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）

(2) 書誌情報：戸田山和久（2022）『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス

(3) 関連する学問領域：文化・教養学

(4) キーワード：論文の書き方、論証

(5) 難易度：

(6) レポートや卒論に向け、問いをどのように設定し文章を作成していくのかを、会話文で伝えています。

(7) 推薦グループ/推薦者：グループA/浅井哲司

★この書籍は、グループB/岡田涼先生も紹介しています。

(5) 難易度：唐辛子マークが多いほど難しい本です（3本が最高）。

(6) コメント：オススメのポイントを中心にした本の紹介です。


(7) 推薦グループ/推薦者：推薦した科目領域のグループと教員が示されています。匿名希望の場合はそのように書かれています。


学問への扉 リーディングリスト


*各項目に含まれる内容


- (1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）、b.特定の学問分野に関わるもの、c.「学問への扉」の特定の科目を受けるうえで参考文献、という3つのタイプがあります。
- (2) 基本的な書誌情報（著者、出版年、書名、出版社）著者名（出版年）『書名』出版社、という順番で書いています。
- (3) その本が関連する学問領域：複数ある場合は、関連度が高いものから書いています。
- (4) キーワード（5つまで）その本が関連するテーマなどを示すキーワードを書いています。
- (5) 本の難易度 1～3 まで：数が多いほど難易度が高いです。難易度は推薦者の判断によって決めています。
- (6) 教員による本の紹介、おすすめの箇所についてのコメント：100 字程度で、概要やおすすめのポイントについて書いています。
- (7) 推薦したグループ/推薦者：所属する科目領域グループ（A～B）と推薦者の氏名を書いています。


推薦図書が2冊以上ある場合、より学生に読んで欲しいものから順に記載しています。


- (1) 書籍のタイプ： b.特定の学問分野に関わるもの
- (2) 書誌情報：竹中克行編（2015）『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房
- (3) 関連する学問領域：地理学
- (4) キーワード：地域、都市、農村、景観、食、工業、観光、歴史地理、公共政策、環境問題
- (5) 難易度： 
- (6) 人文地理学は、人間社会の地域性や地域構造の解明を主たる目的としてきた。本書は、人文地理学の重要な概念と人文地理学が扱ってきた主要なトピックに関して、最近の研究成果を織り込みながら解説したものである。
- (7) 推薦グループ/推薦者：グループ A/平篤志


- (1) 書籍のタイプ： b.特定の学問分野に関わるもの
- (2) 書誌情報：竹中克行編（2022）『人文地理学のパースペクティブ』ミネルヴァ書房
- (3) 関連する学問領域：地理学
- (4) キーワード：都市、農村、グローバル化、キャリア、立地戦略、都市再生、防災、地図、景観復元
- (5) 難易度： 
- (6) 本書は、『人文地理学への招待』をベースに、最新の研究テーマを織り込んで新たに編集されたものである。
- (7) 推薦グループ/推薦者：グループ A/平篤志

- (1) 書籍のタイプ： b.特定の学問分野に関わるもの
- (2) 書誌情報：松山洋他編（2014）『自然地理学』ミネルヴァ書房
- (3) 関連する学問領域：地理学
- (4) キーワード：地形、寄稿、水門、環境地理学、土壌、地理情報
- (5) 難易度： 
- (6) 自然地理学は、自然環境の地域性や地域構造の解明を主たる目的としてきた。本書は、地形、気候、水文など自然地理学が扱ってきた概念やトピックに関して具体例を交えながら解説した入門書である。
- (7) 推薦グループ/推薦者：グループ A/平篤志

- (1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）
- (2) 書誌情報：戸田山和久（2022）『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』 NHKブックス
- (3) 関連する学問領域：文化・教養学
- (4) キーワード：論文の書き方、論証
- (5) 難易度： 
- (6) レポートや卒論に向け、問いをどのように設定し文章を作成していくのかを、会話文で伝えています。
- (7) 推薦グループ/推薦者：グループ A/浅井哲司

- (1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）
- (2) 書誌情報：三島由紀夫（2006）『対談集 源泉の感情』河出書房新社
- (3) 関連する学問領域：文学
- (4) キーワード：対話、文学、二十世紀
- (5) 難易度： 
- (6) 三島由紀夫が作家、俳優、歌舞伎役者らと行った対談本。特に、後半に伝統芸能に関わる数々の名人たちとの対談が「日本の芸術」としてまとめられた。三島は「伝統」とは、大衆化とは無縁の、その「頂上」から「頂上」への「行為者の伝統」に過ぎないと言う。注目すべき観点だと思う。
- (7) 推薦グループ/推薦者：グループ A/渡邊史郎

- (1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）
- (2) 書誌情報：秋田道夫（2023）まわりに左右されないシンプルな考え方（ダイヤモンド社）
- (3) 関連する学問領域：芸術
- (4) キーワード：デザイン、暮らし、考え方
- (5) 難易度： 
- (6) 秋田氏の「シンプルで本質をとらえた言葉」に触れることで日々抱えている悩みや焦り、気負いが消えていき、心がフッと軽くなると感じている人が、数多くいるのです。
- (7) 推薦グループ/推薦者：グループ A/南政宏

- (1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）
- (2) 書誌情報：原研哉（2003）デザインのデザイン（岩波書店）
- (3) 関連する学問領域：芸術
- (4) キーワード：デザイン、暮らし、考え方
- (5) 難易度： 
- (6) 原氏のデザインの囁きに、ちょっと立ち止まって耳を傾けよう。そこには柔らかな感受性から生まれた生活への新しい提言と、未来への可能性が示唆されています。
- (7) 推薦グループ/推薦者：グループ A/南政宏

- (1) 書籍のタイプ：c. 「学問への扉」に属する特定の科目の参考文献
- (2) 書誌情報：藤田正勝（2021）『はじめての哲学』（岩波ジュニア文庫）
- (3) 関連する学問領域：哲学・倫理学
- (4) キーワード：自己、生と死、真理、実在、言葉
- (5) 難易度：🌶️
- (6) 「身の回りにある不思議に驚き、そうした問題を先入見にとらわれず、根本のところからとらえ直して、その向こうにある真理を探究していこうとすること」、これが本書での哲学の定義です。そうです、哲学は身近なところから始まるんです！予備知識なしで考えることの面白さを存分に味わえる一冊です。
- (7) 推薦グループ/推薦者：グループ A/佐藤慶太

- (1) 書籍のタイプ：a. 大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）
- (2) 書誌情報：山口尚（2022）『難しい本を読むためには』（ちくまプリマー新書）
- (3) 関連する学問領域：哲学・倫理学
- (4) キーワード：キーセンテンス、読解の方法、前提と結論
- (5) 難易度：🌶️
- (6) 哲学の本をよんでみたけど、難しくて読み続けられなかった…、こんな経験ありませんか？本書は哲学の本を読み解くための具体的な方法をわかりやすく教えてくれます。読解の具体例として、手に取りやすい哲学の本が使われているので、そこからさらに読書の幅を広げてみてください。
- (7) 推薦グループ/推薦者：グループ A/佐藤慶太

- (1) 書籍のタイプ：b 特定の学問分野に関わるもの
- (2) 書誌情報：三舟隆之・馬場基編『古代の食を再現する』（吉川弘文館、2021年）
- (3) 関連する学問領域：歴史学、農学
- (4) キーワード：文理融合・日本食・復元・稲作・古代
- (5) 難易度：🌶️🌶️
- (6) 『延喜式』等の文献資料をもとに、実験を通じて古代の日本食を復元する意欲的な研究成果をまとめた論文集である。新しい研究分野のため、論文集とはいえ比較的平易でわかりやすい。実験のあり方そのものが興味を惹く一方、古代食の復元によって当時の生活習慣病等も想定され、日本人の生活スタイルを見直すことができる示唆的な書物である。
- (7) 推薦グループ/推薦者：グループ A/守田逸人

- (1) 書籍のタイプ：b 特定の学問分野に関わるもの
- (2) 書誌情報：『日本「文」学史 第二冊』（勉誠出版、2017年）
- (3) 関連する学問領域：歴史学
- (4) キーワード：古代・中世・文字文化・文章の歴史
- (5) 難易度：🌶️🌶️🌶️
- (6) 「文学」成立以前の前近代における「文」あるいは「文章」の歴史、あるいはそれらをたしなむ人々の社会について、様々な局面におけるその具体的な機能・役割と流通のあり方について論じた論文集。日

本列島で文字文化がどのように深化・展開していったのか、見直すことが出来る示唆的な書物である。

難易度はやや高い。


(7) 推薦グループ/推薦者：グループ A/守田逸人


学問への扉 リーディングリスト

*各項目に含まれる内容

- (1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）、b.特定の学問分野に関わるもの、c.「学問への扉」の特定の科目を受けるうえで参考文献、という3つのタイプがあります。
- (2) 基本的な書誌情報（著者、出版年、書名、出版社）著者名（出版年）『書名』出版社、という順番で書いています。
- (3) その本が関連する学問領域：複数ある場合は、関連度が高いものから書いています。
- (4) キーワード（5つまで）その本が関連するテーマなどを示すキーワードを書いています。
- (5) 本の難易度 1～3 まで：数が大きいほど難易度が高いです。難易度は推薦者の判断によって決めています。
- (6) 教員による本の紹介、おすすめの箇所についてのコメント：100 字程度で、概要やおすすめのポイントについて書いています。
- (7) 推薦したグループ/推薦者：所属する科目領域グループ（A～B）と推薦者の氏名を書いています。

推薦図書が2冊以上ある場合、より学生に読んでほしいものから順に記載しています。

- (1) 書籍のタイプ：c.「学問への扉」に属する特定の科目の参考文献：教育の“これまで”と“これから”を考える
- (2) 書誌情報：戸田山和久、2022年、『最新版 論文の教室: レポートから卒論まで』、NHK出版
- (3) 関連する学問領域：学問全般
- (4) キーワード：地域、都市、農村、景観、食、工業、観光、歴史地理、公共政策、環境問題
- (5) 難易度： 
- (6) 大学において必須の知識である論文の書き方や考え方について解説されています。問いの立て方やアウトラインの考え方など、研究を進めるうえでの考え方の基礎になることが学べます。
- (7) 推薦グループ/推薦者：：グループB/岡田 涼


- (1) 書籍のタイプ：c.「学問への扉」に属する特定の科目の参考文献：教育の“これまで”と“これから”を考える
- (2) 書誌情報：山田剛史・林創、2011年、『大学生のためのリサーチリテラシー入門:研究のための8つの力』、ミネルヴァ書房
- (3) 関連する学問領域：学問全般
- (4) キーワード：リサーチリテラシー、課題発見、情報収集
- (5) 難易度： 
- (6) 大学で行う研究に必要な8つの力（リテラシー）が紹介されています。課題発見力や情報収集力は演習を行う入門的な授業にも生きてくると思います。
- (7) 推薦グループ/推薦者：グループB/岡田 涼


学問への扉 リーディングリスト


*各項目に含まれる内容

- (1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）、b.特定の学問分野に関わるもの、c.「学問への扉」の特定の科目を受けるうえで参考文献、という3つのタイプがあります。
- (2) 基本的な書誌情報（著者、出版年、書名、出版社）著者名（出版年）『書名』出版社、という順番になっています。
- (3) その本が関連する学問領域：複数ある場合は、関連度が高いものから書いています。
- (4) キーワード（5つまで）その本が関連するテーマなどを示すキーワードを書いています。
- (5) 本の難易度 1～3 まで：数が大きいほど難易度が高いです。難易度は推薦者の判断によって決めています。
- (6) 教員による本の紹介、おすすめの箇所についてのコメント：100 字程度で、概要やおすすめのポイントについて書いています。
- (7) 推薦したグループ/推薦者：所属する科目領域グループ（A～B）と推薦者の氏名を書いています。

推薦図書が2冊以上ある場合、より学生に読んでほしいものから順に記載しています。

- (1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）
- (2) 書誌情報：岡田行雄（編著）(2023)『非行少年の被害に向き合おう！：被害者としての非行少年』現代人文社
- (3) 関連する学問領域：法学
- (4) キーワード：少年事件、手続、非行少年、被害者支援
- (5) 難易度： 
- (6) 非行少年に関わってきた専門家が、非行少年に積み重ねられる被害にスポットライトを当て、救済と支援のための実践および法的必要性を提言する。
- (7) 推薦グループ/推薦者：グループC/青木 丈

- (1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）
- (2) 書誌情報：若本誠吾,戸田五郎(2022)『はてなの国際法』晃洋書房
- (3) 関連する学問領域：法学
- (4) キーワード：国際法、国家、国籍、国連、平和
- (5) 難易度： 
- (6) 国際法ってなに？ それって私たちに関係あるの？日常生活の中の「はてな？」から出発する15のトピックをわかりやすく解説。国際社会に関心を向け、世界の中の日本を考える。
- (7) 推薦グループ/推薦者：グループC/青木 丈

- (1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）
- (2) 書誌情報：井上達夫(2022)『ウクライナ戦争と向き合う — プーチンという「悪夢」の実相と教訓（法と哲学新書）』信山社出版
- (3) 関連する学問領域：法学、政治学
- (4) キーワード：ウクライナ戦争、ロシア、プーチン、国際社会
- (5) 難易度： 
- (6) ロシアによるウクライナ侵略がなぜ始まり、どのように終わるのだろうか。また、この戦争から日本は何を学ぶべきか、について法哲学者が論じる。
- (7) 推薦グループ/推薦者：グループC/青木 丈

(1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）

(2) 書誌情報：岸見太一,高谷幸,稲葉奈々子(2023)『入管を問う：現代日本における移民の収容と抵抗』人文書院

(3) 関連する学問領域：法学、政治学

(4) キーワード：出入国在留管理庁、収容施設、移民、入管行政

(5) 難易度：🌶️🌶️

(6) 「不法滞在者」はいかなる暴力を受けても仕方がないのだろうか。なぜ、収容者の命がけの訴えは信用されないのか。そもそも入管法違反とは悪なのか。多角的な観点から入管政策を問い直し、その特質と構造を明らかにする。

(7) 推薦グループ/推薦者：グループC/青木 丈

(1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）

(2) 書誌情報：宇野重規(2023)『日本の保守とリベラル-思考の座標軸を立て直す（中公選書 131）』中央公論新社

(3) 関連する学問領域：政治学

(4) キーワード：保守主義、リベラリズム、福沢諭吉、丸山眞男

(5) 難易度：🌶️🌶️

(6) 欧米の政治思想史を参照しつつ、近現代の日本に保守とリベラル、それぞれの系譜を辿り、読み解く試みである。福沢諭吉、伊藤博文以来の知的営為を未来につなげ、真の「自由」を考える。

(7) 推薦グループ/推薦者：グループC/青木 丈

(1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）

(2) 書誌情報：細谷雄一(編)(2023)『ウクライナ戦争とヨーロッパ』東京大学出版会

(3) 関連する学問領域：政治学

(4) キーワード：ウクライナ侵攻、NATO、EU、難民保護

(5) 難易度：🌶️🌶️

(6) ロシアによるウクライナ侵攻にもっとも影響を受けたヨーロッパはどのように戦争に対処してきたのか。各国・各地域の研究を牽引する気鋭の研究者が、これまでを振り返り現況を再確認するとともに今後のゆくえについても言及する。


(7) 推薦グループ/推薦者：グループC/青木 丈

(1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）

(2) 書誌情報：山田昌弘、2020年、『日本の少子化対策はなぜ失敗したのか？結婚・出産が回避される本当の原因』、光文社新書

(3) 関連する学問領域：経済学、人口学、社会学

(4) キーワード：少子高齢化、結婚、女性労働

(5) 難易度: 

(6) 日本で「少子化対策」が始まってから、すでに30年以上が経過しました。色々な政策を行ってもなかなか改善しない理由は、どこにあるのでしょうか？皆さんの将来にもかかわる身近な問題を多角的視点から考えてみましょう。(なお、この本に書かれていることは、あくまで著者の視点で書かれており、すべてが真実とは限りません。大学生として批判的視点で読書を楽しんでください。)


(7) 推薦グループ/推薦者: グループC/持田めぐみ

(1) 書籍のタイプ: a.大学での学び入門(特定の分野に限定されていないもの)

(2) 書誌情報: 佐々木常夫、2010年、『働く君に贈る25の言葉』、WAVE出版

(3) 関連する学問領域: 経済学、経営学

(4) キーワード: ワークライフバランス、人的資本、人生論

(5) 難易度: 

(6) 大学生の皆さんにとって、自分が社会人として働く姿を想像することは、とても難しいことでしょう。しかし、卒業した後、社会に出てどのように働き、どのように生きていくべきか、自分の将来をじっくりと考えるには、この大学時代が最大のチャンスかもしれません。誰のものでもない自分自身の人生をしっかりと歩いて行けるよう、少し先の生活を想像しながら考えてみる助けになる本だと思います。また経済学の視点からも、生産活動を担う労働者をミクロな視点で捉えて考察することの助けとなります。


(7) 推薦グループ/推薦者: グループC/持田めぐみ

(1) 書籍のタイプ: a.大学での学び入門(特定の分野に限定されていないもの)

(2) 書誌情報: 市村英彦ら編(2020年)『経済学を味わう—東大1、2年生に大人気の授業—』日本評論社

(3) 関連する学問領域: 経済学

(4) キーワード: 経済学

(5) 難易度: 

(6) 「経済学って何?」という素朴な疑問に対して、東京大学経済学部の教員たちが、自身の専門分野で考えている「問」とそれへの「答」を明快に説明しています。一部の難しい数式にひるまず読んでみると社会を見る目が変わります。高校までの「経済」とは一味違う「経済学」を味わってみましょう。


(7) 推薦グループ/推薦者: グループC/福村晃一

(1) 書籍のタイプ: a.大学での学び入門(特定の分野に限定されていないもの)

(2) 書誌情報: 山本和博(著)、(2022年)『大都市はどうやってできるのか』筑摩書房


(3) 関連する学問領域: 経済学


(4) キーワード: 都市経済学、地域経済学


(5) 難易度: 


(6) 過疎化などの地方の問題を考えるうえで、過疎化していない「都市」を注意深く考えることで、都市と地方の違いが際立ち、問題解決の糸口がみつかりやすくなります。難しい式は出てこず、数学が苦手な人でもサクサクと読めるので、社会の問題とその解決策に関心のある人は読んでみてください。

(7) 推薦グループ/推薦者: グループC/福村晃一

- (1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）
- (2) 書誌情報：伊藤公一朗、2017年『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』、光文社
- (3) 関連する学問領域：経済学、統計学
- (4) キーワード：因果関係、データ分析
- (5) 難易度： 
- (6) 様々な実例を用いながら、因果関係を把握することがなぜ大切なのか丁寧に説明されている。また、因果推論の各手法も紹介されているので、卒業論文などに是非活用してほしい。
- (7) 推薦グループ/推薦者：グループC/山ノ内健太

- (1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）
- (2) 書誌情報：山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学 データ分析でわかった結婚、出産、子育ての真実』、光文社
- (3) 関連する学問領域：経済学
- (4) キーワード：結婚、出産、育児
- (5) 難易度： 
- (6) 出産や育児など、家族の幸せに関わる問題を経済学の視点から扱っている。特にデータ分析の結果を重視し、エビデンスに基づく主張を展開している点が特徴的である。
- (7) 推薦グループ/推薦者：グループC/山ノ内健太

- (1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）
- (2) 書誌情報：山本和博（2022年）『大都市はどうやってできるのか』、筑摩書房
- (3) 関連する学問領域：経済学、地理学
- (4) キーワード：集積、情報通信技術、少子化、東京一極集中
- (5) 難易度： 
- (6) 空間経済学に基づいて、都市の形成過程を理論的かつ平易に説明している。少子化や地方の過疎化といった問題も取り上げ、幅広いトピックをカバーした本である。
- (7) 推薦グループ/推薦者：グループC/山ノ内健太

- (1) 書籍のタイプ：b 特定の学問分野に関わるもの
- (2) 書誌情報：筒井義郎、佐々木俊一郎、山根承子、グレッグ・マルデフ（2017年）『行動経済学入門』東洋経済
- (3) 関連する学問領域：経済学、心理学
- (4) キーワード：認知バイアス、証券投資
- (5) 難易度： 
- (6) 心理学の知見を経済学に持ち込んだ「行動経済学」の入門書。行動経済学は株式市場の値動きの説明や、マーケティング戦略の立案などにも活用されている。特に本書では、できるだけ数式を使わずに、行動経済学のエッセンスや様々な行動バイアスの学術的検証方法を丁寧に説明している。経済学や心理学に関心がある学生に特におすすめできる内容である。


(7) 推薦グループ/推薦者：グループ C/早木 祥夏

(1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）

(2) 書誌情報：湯澤規子（2018年）『胃袋の近代：食と人びとの日常史』、名古屋大学出版会

(3) 関連する学問領域：経済史、社会史

(4) キーワード：近代化、労働者、都市、日常生活

(5) 難易度： 

(6) 日本の「近代」とはどのような時代であったのだろうか。「日々食べる」という営みを史実にもとづいて検討することで、人びとの体温と体臭が感じられる「日常史」が描き出される。


(7) 推薦グループ/推薦者：グループ C/水野敦洋

(1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）

(2) 書誌情報：湯澤規子（2018年）『胃袋の近代：食と人びとの日常史』、名古屋大学出版会

(3) 関連する学問領域：経済史、社会史

(4) キーワード：近代化、労働者、都市、日常生活

(5) 難易度： 

(6) 日本の「近代」とはどのような時代であったのだろうか。「日々食べる」という営みを史実にもとづいて検討することで、人びとの体温と体臭が感じられる「日常史」が描き出される。


(7) 推薦グループ/推薦者：グループ C/水野敦洋

(1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）

(2) 書誌情報：宮崎成人（2022）『教養としての金融危機』講談社現代新書

(3) 関連する学問領域：経済学

(4) キーワード：国際金融、金融危機

(5) 難易度： 

(6) 「ミステリー小説を読む楽しみに通じるとおもいます」と書かれている通り、本書は国際金融危機に至る過程を「ストーリー」として描き、金融危機を引き起こした犯人を見つけようと試みています。世界経済や国際金融について非常にわかりやすく書かれており、国際経済・金融にご関心のある方はぜひ手に取ってみてください。


(7) 推薦グループ/推薦者：グループ C/笹木琢治

(1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）

(2) 書誌情報：吉川洋（2012年）『高度成長 日本を変えた六〇〇〇日』中公文庫

(3) 関連する学問領域：経済学

(4) キーワード：日本経済、経済成長

(5) 難易度： 

(6) 日本経済に関する入門書です。難しい数学やモデル・理論は出てきません。論理が明快で非常に読みやすく、日本がどのように経済成長を遂げてきたのか理解できます。


(7) 推薦グループ/推薦者：グループ C/笹木琢治


学問への扉 リーディングリスト


*各項目に含まれる内容


- (1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）、b.特定の学問分野に関わるもの、c.「学問への扉」の特定の科目を受けるうえで参考文献、という3つのタイプがあります。
- (2) 基本的な書誌情報（著者、出版年、書名、出版社）著者名（出版年）『書名』出版社、という順番で書いています。
- (3) その本が関連する学問領域：複数ある場合は、関連度が高いものから書いています。
- (4) キーワード（5つまで）その本が関連するテーマなどを示すキーワードを書いています。
- (5) 本の難易度 1～3 まで：数が多いほど難易度が高いです。難易度は推薦者の判断によって決めています。
- (6) 教員による本の紹介、おすすめの箇所についてのコメント：100 字程度で、概要やおすすめのポイントについて書いています。
- (7) 推薦したグループ／推薦者：所属する科目領域グループ（A～B）と推薦者の氏名を書いています。


推薦図書が2冊以上ある場合、より学生に読んで欲しいものから順に記載しています。


- (1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）
- (2) 書誌情報：地球生態学
- (3) 関連する学問領域：環境科学
- (4) キーワード：環境問題、生物圏、進化、酸素、物質循環、安定同位体
- (5) 難易度： 
- (6) 従来の学術分野に捉われず、広い視点から環境問題を考える上での新しい視座を提供しています。現在、絶版となっておりますが、図書館での貸し出しの他、古本を扱うネット書店で購入出来ます。
- (7) 推薦グループ者：グループ D/山田佳裕


- (1) 書籍のタイプ： b.特定の学問分野に関わるもの
- (2) 書誌情報：結城 浩（2020）数学ガールの秘密ノート 確率の冒険、 SB クリエイティブ
- (3) 関連する学問領域：数学
- (4) キーワード：確率
- (5) 難易度： 
- (6) 出版社の紹介に「中高生はもちろんのこと、大学生から社会人まで幅広く楽しめる本書」と書かれているように、わかりやすく対話形式で確率を説明しています。「命に関わる確率」では、条件付き確率の理解が必要な、病気の検査における偽陽性・偽陰性の問題もわかりやすく解説しています。
- (7) 推薦グループ者：グループ D/三木信彦

- (1) 書籍のタイプ： b.特定の学問分野に関わるもの
- (2) 書誌情報：物理数学の直観的方法—理工系で学ぶ数学
著者：長沼伸一郎，出版社：講談社（ブルーバックス）
- (3) 関連する学問領域：数学
- (4) キーワード：微分積分，行列，複素数，複素積分，応用解析等
- (5) 難易度： 
- (6) 高校や大学数学において初学者が必ず理解につまずく難解な数学的手法を，大胆なイメージ化により極めて分かりやすく説明。初版から20年以上，試験前に途方にくれる幾多の学生を救ったとされる名著です。
- (7) 推薦グループ者：グループ D/三木信彦

- (1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）
- (2) 書誌情報：鎌田 浩毅（著），米田 誠（著），2022 一生モノの物理学文系でもわかるビジネスに効く教養，祥伝社
- (3) 関連する学問領域：物理学領域
- (4) キーワード：物理学・テクノロジー
- (5) 難易度： 
- (6) 日常の中にある技術に活用されている物理の世界をわかりやすく説明。
- (7) 推薦グループ/推薦者：グループD/鶴町徳昭

- (1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）
- (2) 書誌情報：リチャード・A. ムラー（著），Richard A. Muller（原名），二階堂 行彦（翻訳），サイエンス入門 1,楽工社
- (3) 関連する学問領域：物理学領域
- (4) キーワード：物理学・テクノロジー・エネルギー問題
- (5) 難易度： 
- (6) 科学初心者を対象とした講義なので、知識ゼロでも大丈夫。
- (7) 推薦グループ/推薦者：グループD/鶴町徳昭

- (1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）
- (2) 書誌情報：リチャード・A. ムラー（著），Richard A. Muller（原名），二階堂 行彦（翻訳），2012，サイエンス入門2，楽工社，
- (3) 関連する学問領域：物理学領域
- (4) キーワード：物理学・テクノロジー・エネルギー問題
- (5) 難易度： 
- (6) 科学初心者を対象とした講義なので、知識ゼロでも大丈夫。
- (7) 推薦グループ/推薦者：グループD/鶴町徳昭


- (1) 書籍のタイプ：
前半：c 「学問への扉」の特定の科目を受けるうえでの参考文献：やってみる科学
後半：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）
- (2) 書誌情報：阿部真人、「データ分析に必須の知識・考え方 統計学入門」、ソシム株式会社、2021
- (3) 関連する学問領域：統計医学
- (4) キーワード：礎、データ分析、応用の分析法を説明
- (5) 難易度： 
- (6) 前半は、数式に頼らずに、統計学の考え方を説明しています。後半も同じく、数式を使わずに応用について解説しています。データなどの分析が必須となる今後前半のみの理解でも役に立つと思います。
- (7) 推薦グループ/推薦者：グループD/鶴町徳昭

学問への扉 リーディングリスト

*各項目に含まれる内容

- (1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）、b.特定の学問分野に関わるもの、c.「学問への扉」の特定の科目を受けるうえで参考文献、という3つのタイプがあります。
- (2) 基本的な書誌情報（著者、出版年、書名、出版社）著者名（出版年）『書名』出版社、という順番で書いています。
- (3) その本が関連する学問領域：複数ある場合は、関連度が高いものから書いています。
- (4) キーワード（5つまで）その本が関連するテーマなどを示すキーワードを書いています。
- (5) 本の難易度 1～3 まで：数が大きいほど難易度が高いです。難易度は推薦者の判断によって決めています。
- (6) 教員による本の紹介、おすすめの箇所についてのコメント：100 字程度で、概要やおすすめのポイントについて書いています。
- (7) 推薦したグループ／推薦者：所属する科目領域グループ（A～B）と推薦者の氏名を書いています。

推薦図書が2冊以上ある場合、より学生に読んで欲しいものから順に記載しています。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">(1) 書籍のタイプ：a.大学での学び入門（特定の分野に限定されていないもの）(2) 書誌情報：著者：15年戦争と日本の医学医療研究会（編集）、2016、書名：戦争・731と大学・医科大学 一統 医学者・医師たちの良心をかけた究明、文理閣(3) 関連する学問領域：医学(4) キーワード：戦争、医学、医療倫理学、(5) 難易度： (6) 戦争時代は医療に対する倫理が損なわれた時代であると言える。その状況下において、特に九大生体解剖事件など、医療はどのような方向に向かったか知ってほしい。現在、遵守されている医療倫理の重要性を感じてほしい。(7) 推薦グループ/推薦者：グループE/横平政直 |
|--|

2024年度 読むことのすすめ「メディアとなるもの」リーディングリスト

*各項目に含まれる内容

(1) 書誌情報 / (2) その本が関連する学問領域 / (3) キーワード : その本が関連するテーマなど / (4) 本の難易度 : 数が大きいほど難易度が高い / (5) 推薦した教員のコメント / (6) 推薦者の名前、所属

- (1) レイ・ブラッドベリ (2014年) 『華氏451度 [新訳版]』早川書房、ISBN:9784150119553
- (2) 学問領域 : サイエンスフィクション
- (3) キーワード : SF、書物と文化
- (4) 難易度 : 1
- (5) 書物を読む上で、書物とは何かを考えることができるSF作品。書物が世界から消えたらどうなるのでしょうか。そのようなIFを刺激的に描くSF名作です。
- (6) 推薦者 : 柴田悠基 (創造工学部)

- (1) 樋口恭介 編 (2021年) 『異常論文』早川書房、ISBN:9784150315009
- (2) 学問領域 : サイエンスフィクション
- (3) キーワード : SF、書物と文化
- (4) 難易度 : 2
- (5) SF (サイエンス・フィクション) は未来や異世界にあるであろうサイエンスや社会システムなどを理論立てた世界観で物語が描かれます。本書は日本のSF作家22名によるSF世界で発表されるであろうサイエンスや社会学に関する架空論文がまとめられています。未来を考えるために未来を仮定する興味深い試みに触れてみましょう。
- (6) 推薦者 : 柴田悠基 (創造工学部)

- (1) 日本SF作家クラブ 編 (2021年) 『ポストコロナのSF』早川書房、ISBN:9784150314811
- (2) 学問領域 : サイエンスフィクション
- (3) キーワード : SF、書物と文化
- (4) 難易度 : 2
- (5) 時代が揺れ動く時、SF小説はいち早くそれを察知し未来の可能性を描きます。本書はコロナ禍の混乱の最中に執筆された短編SFのオムニバス小説です。リアルタイムで当事者になる読者にとっては、小説を読む行為以上に社会そのものを考えるきっかけとなりうる今読むべき作品です。
- (6) 推薦者 : 柴田悠基 (創造工学部)

- (1) 宮本常一 (1984) 『忘れられた日本人』岩波書店、ISBN:9784003316412
- (2) 学問領域 : 民俗学
- (3) キーワード : 辺境や周縁、生活史
- (4) 難易度 : 1
- (5) 離島研究の第一人者である宮本常一によって、辺境や周縁で生きる人びとの生活史が描かれています。本書は、離島を主な舞台として開催されている瀬戸内国際芸術祭のボランティアサポーターこえび隊のホームページで「必読本」として紹介されています。
- (6) 推薦者 : 小坂有資 (大学教育基盤センター)

- (1) 吉田隆之 (2021) 『芸術祭と地域づくり [改訂版] : “祭り”の受容から自発・協働による固有資源化へ』水曜社、ISBN:9784880655024
- (2) 学問領域：文化政策学
- (3) キーワード：地域づくり、芸術祭
- (4) 難易度：2
- (5) 芸術祭が、地域コミュニティの形成にどのように影響しているのかを分析しています。7つの芸術祭をもとにして、地域づくりのプロセス、短中期的な地域づくりにつなげられない要因、ユニークな拠点形成の事例、そして芸術祭の評価事例等について論じています。
- (6) 推薦者：小坂有資 (大学教育基盤センター)

- (1) 宮本結佳 (2018) 『アートと地域づくりの社会学：直島・大島・越後妻有にみる記憶と創造』昭和堂、ISBN:9784812217337
- (2) 学問領域：社会学
- (3) キーワード：地域づくり、持続可能なアートプロジェクト
- (4) 難易度：3
- (5) 地域社会とアート側の双方から提起されたアートプロジェクトに対する疑問を整理し、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」や「瀬戸内国際芸術祭」の舞台を事例にして、持続可能なアートプロジェクトの展開可能性を示しています。
- (6) 推薦者：小坂有資 (大学教育基盤センター)

- (1) 柳宗悦 (1985年) 『手仕事の日本』岩波書店、ISBN:9784003316924
- (2) 学問領域：民俗学、哲学
- (3) キーワード：民藝品、日本文化、伝統
- (4) 難易度：1
- (5) 「民藝」の父、柳宗悦が若者のために著した日本を旅する一冊。全国各地の民芸品を訪れ、かわいらしい挿絵とともに紹介が続きます。『民藝の日本』とセットでぜひ。
- (6) 推薦者：大村隆史 (地域人材共創センター)

- (1) 志賀直邦 (2016年) 『民藝の歴史』筑摩書房、ISBN:9784480097347
- (2) 学問領域：芸術、社会学
- (3) キーワード：民藝運動、歴史
- (4) 難易度：2
- (5) 「民藝」が生まれた社会と経済に生きた人物たちはどのような関係を築いてきたのか。人物関係史的に「民藝」を読み解く一冊といえます。
- (6) 推薦者：大村隆史 (地域人材共創センター)

- (1) 軸原ヨウスケ・中村裕太 (2018年) 『アウト・オブ・民藝』誠光社、1,650円、ISBN:9784991114915
- (2) 学問領域：芸術、社会学
- (3) キーワード：民藝運動、農民芸術
- (4) 難易度：2
- (5) 「民藝的な何か」が幅広く提示されています。民藝とその周縁の芸術を理解するための一助となる一冊です。収録された人物相関図を片手に『民藝の歴史』を読むのも面白いです。
- (6) 推薦者：大村隆史 (地域人材共創センター)